

認知症になっても 安心して暮らせるまちづくり

高齢化が進み、認知症の人は今後増加することが予測されています。認知症は誰がなってもおかしくない身近な病気です。さまざまな団体が協力し、地域全体で認知症の人を支える「認知症になっても安心まちづくり連絡会」の取り組みと委員の声をお届けします。

■問い合わせ＝市地域包括支援センター（☎ 34-2199）



地域で作る支え合いの輪

市では、認知症の人が住みなれた地域で安心して暮らし続けられることを目的として、平成24年度に「認知症になっても安心まちづくり連絡会」を設置しました。医師会、歯科医師会、介護施設関係者、認知症の人を介護する家族、金融機関、タクシー協会など22団体で構成されています。課題の解決に向け部会を設置しており、認知症の人やその家族の現状と課題を共有しています。連絡会では、住民との協働も含めた連携を重視し「本人と家族の支援」となるよう活動しています。認知症の症状で行方不明になる心配がある人を登録することで事故を回避し、早期に見つけることを目的とした「奥州市はいかいSOSネットワーク」の設置や「認知症かな？」と思った時の相談窓口、認知症の状態に応じて、どの時期にどんな支援があるかを掲載した「認知症おたすけ便利帳」の作成など、さまざまな活動に携わってきました。



連絡会 会長
市民生児童委員連合協議会
鈴木 公男 会長(71)

連絡会の会長であり、また地域の身近な相談窓口として20年以上、民生児童委員を務める鈴木公男さんに、連絡会の活動を通じて感じていることを聞きました。

にも広がっているのでしょうか。民生委員の活動の中でも、認知症の疑いがある人と接することがあります。認知症は早期に治療することが大事ですが、本人にどう伝えるかが難しい。家族が伝え、病院に連れていってもらえればよいのですが、高齢者世帯や一人暮らし世帯が増えていく中で、誰が支援していくのが今後の課題だと思っています。

り一層当センターの認知度を高めていきたいと思っています。連絡会に参加して、金融機関など普段関わることのない人の声を聞くことができました。認知症を本人が受け入れにくい原因の一つかと思っています。民生委員や金融機関の職員など地域の人たちの見守りや声掛けで、市や医療機関へつながっていくケースが増えていくものと思います。医療機関に行くのは抵抗があり、勇気がいることだと思います。時間がかかるかもしれませんが、周りの理解が必要です。連絡会がその支援を行い、安心して暮らせる社会になればと思います。

当センターへは、まずは電話でご相談ください。（☎ 34-11226、月～金 午前9時～午後4時）



連絡会 委員
おとめがわ病院
北谷 朋恵 地域連携課長(44)

認知症疾患医療センターは、認知症に関する詳しい診断やそれに基づいた治療方針の立案、専門医療相談などを行う医療機関です。こちらには、かかりつけの医療機関からの紹介で来る人が多いです。個別に来る人は、症状が悪化していることも多く、もう少し早い段階で相談や治療につながっていれば、今より安心して生活を送ることができたのでは、という人もいます。よ

商店編

認知症？こんな時には こんな対応を ～対応のヒント～

支払いに時間がかかります。お札で支払うのですが、お財布に小銭がたくさん入っています。

考えるスピードが遅くなり、行動もゆっくりになります。金種の確認が難しくなり、計算もできなくなってきました。新しいことを覚えることが難しくなります。

必要なお金を「千円札1枚ありますか」「100円玉3枚ありますか」など、適宜声をかけてみましょう。

～必ずつづき動作をシンプルに伝えます。

★セルフレジも増えていますが、1つの操作ごとに丁寧な説明が必要です。通常のレジに誘導してみましょう。

同じことを何度も説明しているのに、納得してもらえません。

認知症になると、言葉の理解が難しくなります。

- ゆっくり繰り返し話す、あきらめず、笑顔で対応するようにしましょう。
- あまり深く言わずに、1つ1つシンプルに伝えましょう。
- 順番や巡回しを覚えて説明するとわかることもあります。
- 対応を別の人（上司など）と代わってみる方法もあります。

突然大声で怒り出し、説明をきいてくれません。

本人にとっては、自分の気持ちが理解されない、言葉の聞き間違いなど、怒る理由があります。

予約をしたことを忘れています。

約束したことを自分ですっかり忘れる、記憶障害の特徴がみられます。

奥州市 地域包括支援センター

認知症の方への対応のヒント ～金融機関編～

通帳や印鑑、キャッシュカードを何度も紛失する

原因

- 認知症の症状である記憶障害が原因で起こります。
- しまい忘れをきっかけに、もの盗られ妄想になる場合もあります。

対応

- 相手の困っている感情に寄り添い、共感します。
- 相手の言葉を繰り返すことで、理解してくれていると感じます。
- 落ち着いた話を聞いてくれるのであれば、一度自宅に戻ってもらうように話をしてもらいましょう。
- 「盗まれた」「泥棒がいる」などと言う場合には、相談先として地域包括支援センターを紹介してください。

過去の取引について記憶にないとされる

金融機関編

完成したリーフレットは、市内の商店・金融機関に配布した他、市ホームページにも掲載しています。



リーフレットはこちらから

「タクシーと高齢者の関わりは強く、午前中の8割は高齢者」というタクシー協会の花山雅樹さん。商店編のリーフレット作成に部長として携わった感想を聞きました。

県タクシー協会胆江支部では、高齢者や体の不自由な人への対応を含めた「ユニバーサルドライバー研修」を行っています。認知症の人は年々増加しており、2025年には65歳以上の5人に1人が認知症やその予備軍になるといわれています。協会としても、これからどういった対応ができるかが課題になっています。

連絡会では、これまで認知症の人を地域全体で支えるようさまざまな取り組みを行ってきました。今回は、認知症の人が安心して買い物ができる



連絡会 委員
県タクシー協会胆江支部
花山 雅樹 副支部長(63)

るように、商店の人に向けた対応方法をリーフレットにまとめています。作成に当たっては、事前に商店や薬局などにアンケート調査を行い、そこから出た問題点や、各委員からの意見などを参考にしました。誰が見ても分かりやすく、困ったときにどこに連絡すれば良いのかをシンプルに記載しています。また、実例に基づいた認知症の人への対応のヒントを記載しました。これはほんの一例であり、これで全て解決するというものではありませんが、これを基にさまざまなケースでも自分で考え対応できるようにするきっかけになればと思います。私たち一人一人が認知症を理解し、家族だけでなく、地域みんなで支え合い、認知症になっても安心して暮らせる地域を目指しましょう。

あなたも 認知症のサポーターに

市では認知症についての正しい知識を持ち、認知症の人やその家族を支援する人を養成する「認知症サポーター養成講座」（※テキスト代有料）を行っています。地域の集まりや学校、企業などに出向き、講話や寸劇などを通じて認知症の人への接し方などを紹介します。

受講した皆さんにはサポーターの目印としてオレンジリングを配布しています。認知症の人や家族を応援するサポーターとして、友達や家族に覚えた知識を伝える、外出先で困っている人の手助けをするなど、できることから始めてみませんか。

■問い合わせ・申込先〓市地域包括支援センター（☎ 34-2199）



オレンジリング